



是永 宙 議員

「こどもの体験格差」について

**こどもの体験格差を広げない
ためにも市長部局と連携でき
ないか**

**体験機会の周知などについて、必要に応じて
関係部署と情報共有を図ります**

によって制限されることがないよう配慮することは重要ですが、体験活動は多岐にわたるもので行政が一律に保障する性質のものではありません。そのため、策定中の第3次高島市総合計画において「体験機会の充実」を施策方針に位置付け、取り組んでまいります。

問 市長部局との連携の必要性については。

答 教育総務部次長

教育委員会だけで対応が難しい課題につきましては、福祉部局や子育て支援部局とも情報共有を行うことも必要であると認識しております。また、体験機会の周知などにつきましても、必要に応じて関係部署と情報共有を図りながら、対応してまいります。

こどもの体験活動はその後の成長や進路選択に影響するとされ、子どもの育ちには必須要素である。しかし、こどもが体験活動に参加するかどうかの判断は、家庭に任せられていることから、保護者の経済的・時間的余裕を原因とした格差が生じている現状があり「こどもの体験格差」とも言われている。

問 高島市におけるこどもの体験事業の実施状況と課題はどうか。

答 教育総務部次長

市では、自然環境や社会教育施設を活用し、幅広い分野で体験活動を実施しています。また地域学校協働活動を通じ、学校と地域の方々が連携した体験活動等にも取り組んでいます。しかし、参加数が減少傾向にあることや、子どもの興味・関心の多様化への対応などが課題であることから、参加しやすい環境の整備に努めたいと考えています。

問 参加者減少の要因をどう分析しているか。

答 教育総務部次長

少子化による対象児童数の

減少のほか、活動の選択肢が多様化し、ゲームやインターネット等の室内遊びへの関心の高まりがあります。加えて、共働き世帯の増加により、送迎や付き添いが難しいといった家庭の事情も影響しているものと推察しており、こうした「意欲の壁」もしくは「時間の壁」が課題であると認識しています。

問 行政計画に子どもの「体験保障」を位置づけてはどうか。

答 教育総務部次長

子どもの体験活動の機会が、経済的事情や家庭環境等

その他の質問

オーガニックビレッジ宣言について